

日本スポーツ雪合戦選手会 声明文

2018年5月1日

日本スポーツ雪合戦選手会 代表 上野 克 浩



日本スポーツ雪合戦選手会は、昨年末に回答をいただいた、日本雪合戦連盟、国際雪合戦連合の回答を拝読し、全国の各地の選手の意見を確認させていただきました。

その上で分裂している現状に対して、以下の見解と要望を声明文として公開を致します。

第1項 声明の趣旨

スポーツ雪合戦選手会の構成チームは、両方の組織の主催大会に参加しております。

さらに運営や審判など地域の人材の礎となっている選手も多く選手会に在籍します。

今のスポーツ雪合戦を支えているのは選手であり、チームであると認識します。

その選手会の総意として、雪合戦は、まだ普及段階の競技であるのが現状と認識します。

さらなる普及の為には、組織が一本化されることが不可欠であり、それは、

世界（国際雪合戦連合）－日本（日本雪合戦連盟）－各都道府県連盟 となることです。

この形は誰が考えても自然な組織の形であり、この体制で組織が一本化されることを、あらためて選手会として強く要望します。

第2項 声明の理由

両組織の回答から、「現状での一本化」は困難であるという「状況」、と「対話」は継続していくという回答を受けて選手会として出来る事を考えた、結果であります。

日本雪合戦連盟は、「世界スポーツ雪合戦連盟」の設立を予定されていますが既に「国際雪合戦連合」として、12カ国が加盟している現状を踏まえると、その設立は、現在の分裂を深める事につながることは明確であり、それは発展途上の雪合戦界に不利益なものと判断し、選手会として賛同出来ることではありません。

また対話もなされていない上、今の時点で軌道修正されない事は雪合戦界の大きな危機と判断します。

第3項 選手会の要望、および考え

- ・国際雪合戦連合は、日本雪合戦連合へ加盟要請をすることを求めます。
- ・日本雪合戦連盟は、あらためて国際雪合戦連合に加盟を申請し、国際雪合戦連合は日連の国際雪合戦連合への加盟を承認することを求めます。
- ・県連、組織においても所属に関わらず、解決に向けて行動していただくことを求めます。
- ・再編成された段階で北海道連盟、鳥取県連盟、山梨県連盟、岩手県連盟の4団体は日本雪合戦連盟へ再加入をし、一本化されることを求めます。
- ・それぞれ立場で、実現に向け対話が進むことを切望します。第4項以下に記載します。

(第3項：補足説明)

まず、第一に雪合戦界の一本化にむけて「現状では困難」という中でも対話のための行動をして頂きたいと要望致します。

両組織としては一本化を目指しているのか、それとも、このままの推移で行くのか、事情説明では選手には不明確なため、混乱しているのが現状であります。

両組織とも規模が拡大し、譲れない点や妥協できない事情等があると思われませんが、それでも対話を重ね、共存を模索し、一本化を出来る方法を実現して頂きたいと願います。

多くの選手達が両組織の縁の下にいる事を念頭に、けして個人的感情や都合で対話による解決を怠る事がないように切に願います。

また、もし、この状況で一本化を目指していないと言うことであれば、明確な意思表示を頂きたいとお願い致します。

第4項 日本雪合戦連盟へ対して

あらためて雪合戦界の亀裂を拡大させる「国際スポーツ雪合戦連盟」設立への動きに反対します。日連側の国際スポーツ雪合戦連盟の設立は、雪合戦界の発展に全く逆行していると判断します。

同時に、昨年末の岩手県連盟をはじめ、過去の山梨、鳥取、北海道と各地の連盟が脱退している事実に関して、単なる意見の相違では済まされないものと受け取ります。

なぜ、所属連盟の脱退が続くのでしょうか。そこに組織の目的、または現執行体制に原因となる問題があるのではないかと選手会は大きな疑念を感じます。

第5項 日本雪合戦連盟所属連盟に対して

選手会チームは地域の連盟主催大会に参加している形のみで両組織分裂のまま所属が分かれていることとなります。

全国の雪合戦チームにとっては、上層部分裂の事実だけで、組織無縁のチームがほとんどを占め、選手会が全国のつながりを共有しています。組織がこの状態にあること、ルールが異なった状態であることは、二つの組織の冠大会に参加し雪合戦を支えている、選手、

チームにとって、はなはだ迷惑な事です。

一般社団法人である連盟を脱退する県連盟が続いていることへ対して、その問題の提起は出来ないのでしょうか。

競技としての発展、ルールの一統の為にも一刻も早い修復への働きかけを代表社員、理事である各県連盟の関係者へ要望します。

また、日本雪合戦連盟を脱退した道県連盟は、脱退した経緯における理由が改善され組織が再編成された際には、再度、日本雪合戦連盟への再加盟をご検討いただくことを切望します。

第6項 国際雪合戦連合へ対して

昭和新山大会は頂点の大会である点は、全国のチームが認める点です。

これまでの世界各国への普及は評価されることですが、現状の諸外国と国内の4つの道県連が横並びであることはやはり、不自然であることと考えます。

日本雪合戦連盟へ、加盟条件打診を行い、一本化された際には4つの道県連盟の再編成と健全な体制を築いていただくことを要望します。

第7項 終わりに

各地で雪合戦が普及した最初の経緯では、どの地域も間違いなく、地域の活性化のためのイベントとして始まった事だと理解しています。

大会規模や参加チーム数、競技性など明確な基準がないままその運営母体が連盟を名乗り全国組織一体となって活動されてきた現状を理解しますが、十年、二十年を経て、現に消滅した大会や、規模が縮小されている地域があることを把握されているのでしょうか。

選手会は世界や、オリンピックという将来的な活動を否定するものではありませんが足元にある現実的なチームありきの雪合戦の現状をご理解頂くことをお願い致します。

これは選手会に多く在籍している大会運営を担っているチーム選手の現場の声です。

あらためて日本スポーツ雪合戦選手会は、日本国内、まだ連盟のない地域への雪合戦普及や、競技人口の拡大の為にやるべきことを、今一度精査し、組織の一本化、ルールが一本化される事を最優先に考え、両組織、並びに関係団体へ動いていただく事を強く要望します。また、選手会の活動としても、今後、協力を惜しまない所存です。

本声明文での要望に対しては、回答を求めるものではありませんが、全国の窓口となるチームと情報を共有し、今後の動きを重視し、引き続き選手会としての対応を検討させていただきます。

以上、選手会声明文とさせていただきます。

選手会一同

選手会代表 上野 克浩（岩手／銭形平次）

◎印は発起人役員

【北海道地区】

地区代表／田村 和宣（道央／でいくさんズ神出）◎

市川 裕幸（道北／growth）◎

安藤 真司（胆振／AS・SC）◎

磯田 宗国（道央／あすとろうず。）◎

前田 哲也（道央／炎のムチ打ち同好会）

清水 弘樹（道央／とりあえず生。）

佐々木 稔（道央／DACS）

柳町 宣孝（道央／D-Force）

上野 伸一（道央／MoMo）

吉田 和也（渡島桧山／せたなレスキュー）

差波 優奈（渡島桧山／Snow fairy）

佐藤 弘規（道央／SKYWARD）

稲川 聖士（道央／KSK）

井上 光彦（道北／TeamDog）

堀 靖史（道央／JsckBond\$）

沼口 英樹（渡島桧山／せたな町役場 SFC）

新谷 尚史（道央／SATT）

【東北地区】

地区代表／杉村 昭宏（宮城／SS ピアーズ）◎

高橋 能史（岩手／東部レイダース）◎

菅原 拓哉（岩手／南部レイダース）

三浦 和貴（岩手／僕らの雪合戦）

菰岡 一成（岩手／outsiders）

小原 一志（岩手／めしべ）

杉本 裕樹（岩手／スノー駒ンドー385）

星 学（福島／住田光学 SNOW 隊）

【関東地区】

地区代表／倉内 唯気（埼玉／はだし部）◎

遠藤 元気（東京／風前の灯・トキヲ）◎

赤羽 大（群馬／北軽ビーチ）◎

西家 靖（静岡／ピヨンドⅡ）◎

相米 友紀（長野／LedyBABA）

【中部地区】

地区代表／波岡 明弘（岐阜／Bigwave）◎

松本 将和（富山／OZ）◎

伊藤 佑治（岐阜／岐阜 KCY）◎

【西日本地区】

地区代表／辻 隆宏（広島福山／瀬戸内雪球団）◎

丸子 拓範（大阪／NANIWA さっと）◎

石田 匠（鳥取／チームイシダ）◎

今田 実延（島根／零）◎

佐々木 肇（島根／デンジャラース）

澄川 陽子（島根／デンジャラースガール）

目崎 章悟（広島福山／猫の手クラブ）

長谷川 真（広島／雪村時代）◎

湊川 裕司（四国／高松クラッシャーラン）

谷口 誠二（四国／イヤンキース）◎

坂田 英成（京都／纏倶楽部）

志佐 哲郎（福岡／Chikappa）◎

加納 正浩（島根／SJ 松江）

森 良太（広島／O! Snipers）